



新編熊阪説話

五

A13
4443
5



伊勢參宮

吉凶説

凡人の性
よみて来
官て来
年と悪と年と
何り来
まがよ
参宮一
若



今諸書し要と
とりて其吉凶と洋ふ記に今い小冊と
かんがて来宮一はまがたふ来幸いと
何某道人藏

浪華
墨形筆

新編熊阪説話卷之五

武江

感和亭鬼武 著

○賊徒夜討牛若丸御の話

併 熊阪長範の事

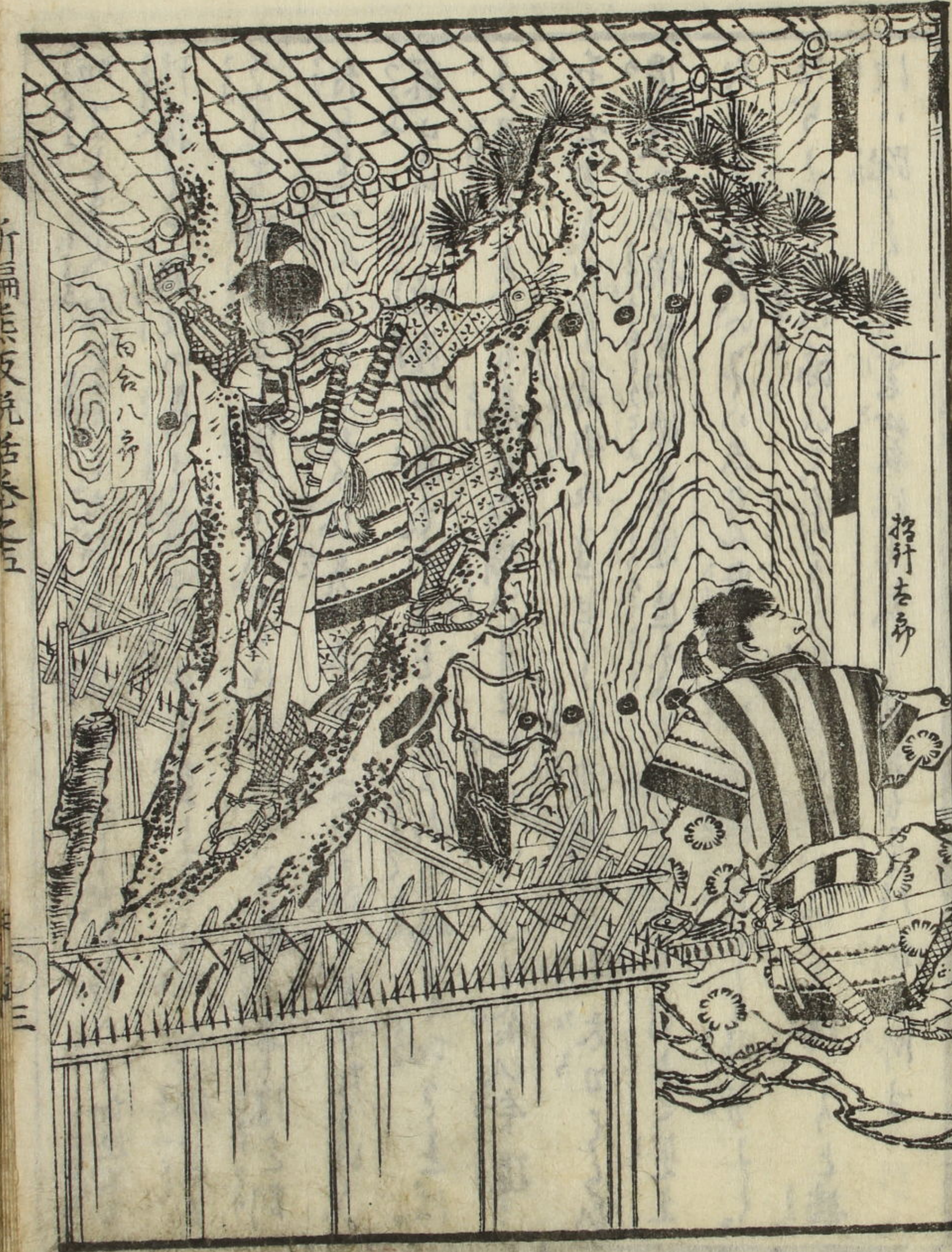


却況熊阪長範は青墨の長者がもとに抜入んとおまのころと
相番と玉多皆一投のお長末是近附後より盗賊より三草野四郎
丸屋九郎麻生の松雅壬生の小猿三条右衛門内内之是近
八郎三國の九郎及坂入通柳下小六指針太島養州を新
丸五郎八高嶽の二郎徳崎五郎以始りして列位侍物と近
握く其勢放合七十余人が前後に備へて力も着込直平次中
根の怪をいたる大長刀小脇に捲込僻靜とよかけ長老大炊の

新編熊阪説話卷之五

衛と五老小様が毒の相寄と時刻今やと扣し一も浅
 こぬ形勢あり推くありて相寄の子子するふど時とまれと。
 尚の相子と合とまば長老の大門よりひき小様が毒の三穀の
 之出とまば膏より海老の初種成るうぐうとるに大座下社の
 人々を悉く森まらまし中に十六七の小童一個襖の明たて
 物合のそよとの着ふも心とけけいまと森やらぬとまなとど。
 這奴一個目またりとて何程のまあらん時刻今ぞ付入ると
 とくひまがみ皆去来やとり折う。二草性口即空うら海
 今宵の天文才念公ねどるところらまどもかくまで仕立し
 るのまごのまごも止難し列位意と一残るし付と合せ
 日士付日とびる入りの付て棄進りりのともし揃の襖一個も

りらとむ。後入敷の中よりみ候して小様のおりの傍る。
 揃次が奴僕造り揃り来るべしゆかひ能ぞ疾付入とり入不ど
 こそめさ。おれ先ふと相明と歩揃し乳を入る勢いへやう
 危神も面とひくべきやうとまき。以て長老の渾家い不計
 叔付の入ぬまば上下大ひの周系し狼狽果を記立し河端
 より後りあげなと奥深く込入るがら如は三条揃次も時
 心も強まる候子とて兼て是器もあぬまは。疾よ記たら
 容とまし。一腰杖撥るがら。換入滅後よ後合奥の方へ入世
 己。只一個とまへたり。びうらに長老が奴隷も進くま度は。
 揃次よ引添撥連て付て出まをち途と幸ひら。孫の五
 鳥の揃次と眼しけまらと付ける揃次もころへ流し。



白合八重

招針吉郎



涉生松尾

三草下島

辰辰八通

熊坂八通長花

丸尾九郎

熊坂の
橋次の
舟物と
奪い合
長者の
押し合
り

熊坂八通長花

三

切せよ火をたきし志ばしが往我くいしが五郎八が切込太刀
 法換して搦次の肩は僅の房より交もせよ流んで拂き
 りんよき投切きて倒るゝ城から竹割の拜々打上帯除と刻
 付らと一入と見えたる孫美の五郎八二つよめて失せたりけん
 麻生の松推を着てあまをほしと朴刀輪して切るとは
 子願おととも屈せぬ搦次も松推小こくり合ひ合限
 お合ども由末武術に達せし松推搦次が太刀とらへ
 退け二の腕す切込も遂迄をと跟入て脱れよと見え
 たるところにいづハ志らん麻生の松推眼盲し形勢よく
 たりくと松推いてさうう尻居よ倒れ外す得ると搦
 次ハ跳うう大袈裟衣にお放し其方も後倒れす

けり松推などの豪傑目々のとて倒れ討とすいふ竹
 形もへあらんと按ざるよさういし年松推のたりの非
 道の母は死したりし谷貝の存助教子の亡念松推に怨
 とささんとけ虚にまじて素と死し松推の眼よさ
 ころり寝い搦次よかみ流たるふや何も計じと
 さまは長老の奴僕共も城のためは切をらと或ハ子願或ハ
 逃れせあやうと折る長老太鼓あ狭衣女児延壽竹吹冷泉
 十五枚甲装へ出きて後々長刀おうう進む盗賊
 三個をも切てとす老人女まといども流石名をけし長老の
 陣家武の通も賢く盗賊共は後方後まげらるゝ交へ
 こことし城の勢は強けいまい丸忌九郎高瀬の二郎貞徳



抜のて一間の隙子踏開きよとり入よと入へるぞ二個のた客に切
 倒とまをらるとまをる血煙の中よ一個女も亦男も利かたま
 美少年顔顔の袴の裾もく狭まると金能王の小ち力を帯び
 とつくとまをるた刀揺揮あうまをるが河内の道也三条右衛門三
 四九郎折下小六這ぬまをるの道とると四個一弁討ゆるは
 別ち九郎冠者牛若丸先尔と突つて四個を対子よ物取も
 とつとまをるた刀ゆらくとくるうらに人へま向無車風巻八方
 切を子流子殺まをるまをるけねよ沼田歩彼もよたふまをる併とつ
 續てゆる百合の八郎及込入道指針を郎兼列を郎煙島
 五郎女と侮らるるを植せし残念とよと押を殺して付んとす牛
 若丸のまをる懼るる氣をぬくおを力をもてまをる近しい狛子分も

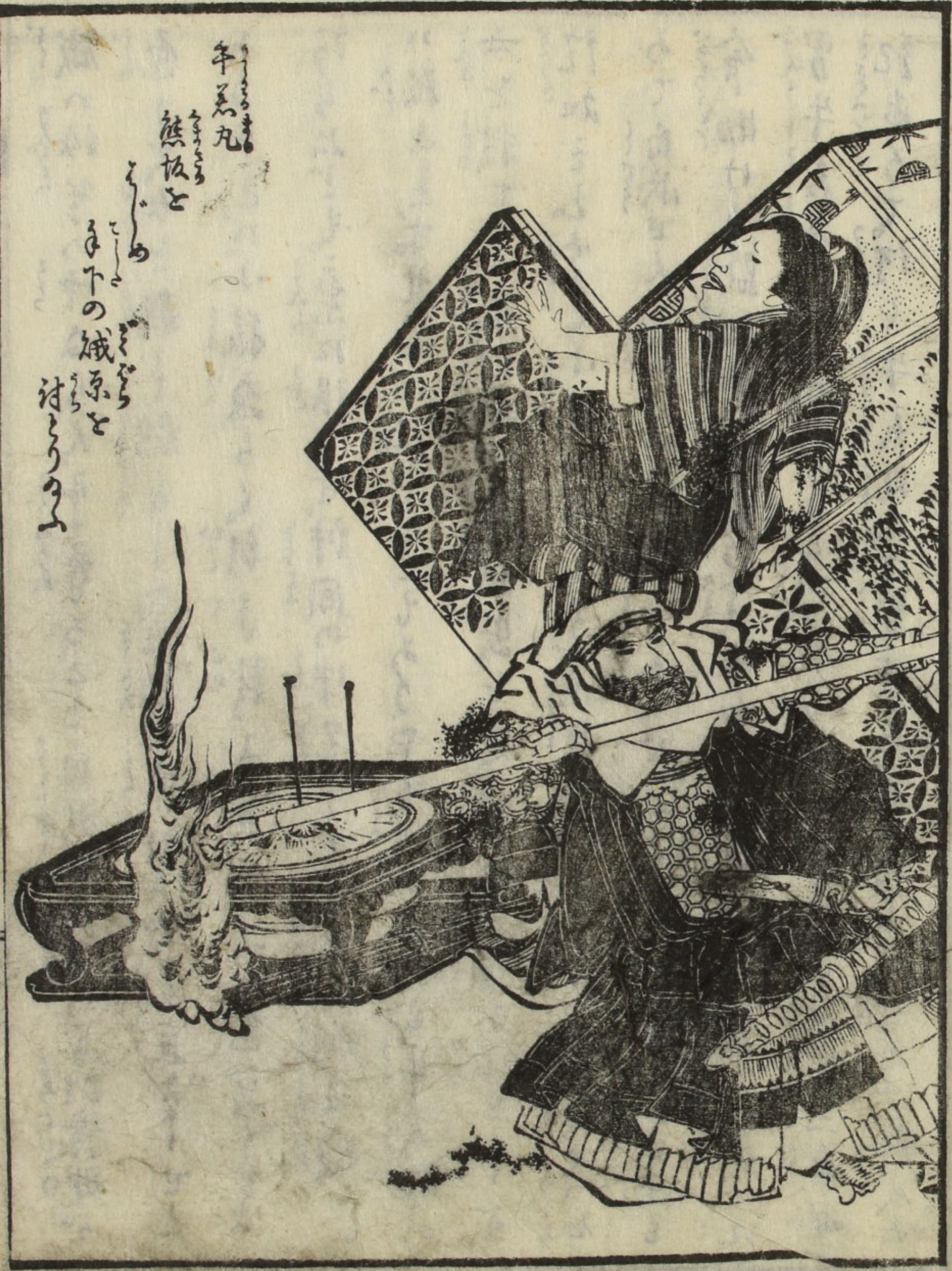
虎乱入飛鳥の翔の子やぐと面よまをる百合の八郎利流丁女
 切とまをるす刀よ指針を郎兼中らも拂ひの及込兼列煙島
 命をとりまをるまをる付てゆると兼とよまをる紙眉同肩骨あうらと
 律もいふ後左右に切てまをる時も移とまをる十一個まをるこれ切
 伏まをる快血刀揮てまをる一息休がるまをる智ひ人間業といま
 さうらまをるけらるるにまをるの小城ひららものくらん遊夫まをる後法に
 扱へし熊坂長龍は軒と見てまをる大い驚きまをるおとまをるの下よ
 付といらまをる鬼神まをる人間まをるていよまをる危し引んまをる最力を
 扱よ突後らだんもひまをるまをるまをるまをる那小冠者通力自在
 をほるとまをる竹徑のまをるあらんは熊坂秘術をまをるまをるまをる
 おる大魔鬼神まをるまをる宙よ扱んでまをるまをるまをるまをる

るまどものいで喰まきに報せんととつてかしく大長刀引きど
り身をなまを戯着ろ。牛もも太刀を構は互よつるを
待りしが。熊坂進退速く踏後壁も通まこと。突蕪刀と
丁と交て。踏遠引手へ紙せば。退りけとるさずこむ。長刀小閃と
のふまどびに向ふよし。退て引ば右ふへ紙守押を直してころ
しつ付を宙とて拂ひおんと解て跳上り。具足の間隙を切
こまると。熊坂も時いどと。素ての忍術行へども。夫れ水月神の
無護といひ。古今獨歩の良将とあるべし。牛も丸義氣勇
猛の勢ひよ。其初も強ま。却て重まを負ひぬま。熊坂
は措まに。わりの組んで捕んと。長刀投棄。太子を度げ退
れ。進は。投んと。ともども。暗灯の月の。や容もあはれど。

ふもなうらますとす。あままて。またろそ。おんを。まを。つて。まこ
一太刀。ぶ才くに。流す。負ひぬ。猛を。心も。力も。もて。流石の
長靴眼。うろ。も。尻尾。倒る。其折う。三草鹿。四郎。土生。小猿
寓舎。小砂。折。描次。ぶ。奴隷。捕て。け。知へ。未く。一。が。け。折
あると。二。個。ハ。接連。て。左。右。方。より。牛。も。子。と。道。じ。と。切。り
たり。牛。も。這。と。看。せ。ぬ。一。個。ハ。前。の。寓。家。の。主。人。依。り。母。も
相。衝。ま。ふ。侮。も。小。ハ。同。り。あり。と。二。歩。三。歩。紙。入。中。三。草。鹿
ハ。肩。先。深。く。切。込。ま。光。の。重。ま。よ。し。ま。伏。す。續。ひ。て。小。猿
太。刀。折。為。し。危。さ。さ。と。へ。跑。ま。る。三。谿。ま。ハ。や。ろ。付。世。と。
短。刀。と。して。突。か。く。る。身。と。換。て。三。谿。が。首。宙。小。閃。り。と。お
る。小。猿。と。捕。て。孫。よ。捨。伏。音。小。声。へ。熊。坂。と。い。つ。る。盜

新編熊坂物語卷之五

六



年丸
熊坂と
み下の城原と
討つる

新編源氏物語



新編源氏物語

織ハ汝等の中ならん。予尋ること白状せよ。こつろ以青地が
原こそ女と殺し剥ぎし。日類の中なるやま直よせと
あつたまば小猿煮らく。糸に限らず。仲間の中をぞも女と剥ぎ殺せ
ららねども。糸に限らず。仲間の中をぞも女と剥ぎ殺せ
ハ教まをば。其女に記し。小てもありや。何とりよ。牛馬那の
女と殺せし。后竹者が卒級安と建常盤の塚と記せし。づ
佐知と。守て小猿ハ赤あつた。内牙の姓名うけくる。其公
めて白状せんと。答へよ。牛馬。予今世上と。思ふ身まをど。連し
命助けぬ。盗賊共名あつた。守せん。我こそハ。左馬頭義朝の九
男牛馬丸と。つらぬ。めまると。内名と。守し。つらぬ。負の。熊阪三草丸
記せし。何く牛馬丸。小て坐すと。やま。めららば。尋し。婦人と

いつら。常盤町前の。内す。ぬら。いり。小も。其常盤の。ま。汝等。の。つ
も。ま。か。け。し。ら。と。尋。た。ま。へ。熊。阪。長。範。ま。に。く。を。仔。細。あ。い。ぬ。母
君。の。お。方。ま。安。所。ま。て。後。ら。せ。ぬ。い。ん。易。く。お。ぼ。と。れ。よ。ら。よ
小。娘。し。き。牛。馬。丸。小。猿。と。つ。て。近。紀。し。常。盤。町。守。り。死。し
たり。と。守。の。隊。ま。で。築。さ。た。ら。ぬ。そ。動。静。も。知。り。つ。ら。ぬ。と。今。世。ま
熊。阪。長。範。と。い。ら。ぬ。ま。も。初。ら。ま。し。り。一。の。付。畧。者。常。盤。町。守。り。死。す
る。と。せ。ら。ぬ。い。と。金。儀。者。し。た。ま。ま。中。青。地。が。原。の。辻。堂。の。意。を
お。ぼ。し。し。ら。ぬ。後。究。に。き。糸。目。ど。け。洞。に。入。て。猿。客。と。う。ら。ぬ
お。ぼ。し。し。ら。ぬ。一。日。那。洞。に。到。り。ま。ま。び。野。老。な。ら。ぬ。上。落。の。咄。を。と
如。何。お。ぼ。し。し。ら。ぬ。と。尋。ね。し。に。常。盤。町。守。と。内。名。と。明。し。熊。義。の
助。が。助。け。よ。と。命。ま。後。び。表。衣。着。ま。び。疾。侍。女。千。程。と

ちらんへ三谷のち小かけぬまが、此母君へいそくに源家へ懸
 團中千種の死骸と俵ひと葉六枚の軒よりとや、耶不
 小埋の塚と建常盤所と記せし、平家の金髪と後とら
 新中系、近江源氏の嫡流、佐々木季定が肥子なまこと
 幼穉あつて、徳政たつ季長又育らと別から徳政長範と
 ありの、今諸國の源氏悉く平家又偏ら、世中由べぬ
 溜し死るとも、平家より後、人ほじ、蛭が小島、兵衛佐殿に
 源家再真の旗とと勤め、奢平家と付、亡し源氏の所代又
 まさんづと、益成と業として、軍用金と左、素人、是まど、益
 一、金限ハ小猿が家の土庫の中、又徳めと、君又捧軍用
 の只しと、取し、所、兄才一、致め、つて、行、平、義、兵、と、上、た、か、後

是るる長刀ハ、法聖いまど、並く、の武士たる、と、れ、歳、島、月、神、より
 授け、不審の一振、夫より、一門、整、習、做し、平家一統の世とあり、
 控、威、成、揮、入、平、氏、の、重、宝、是、と、奪、と、り、勢、成、ら、ら、ん、と、折、と
 競、ぶ、よ、り、時、法、聖、の、殿、と、み、主、生、の、ね、と、看、物、と、西、八、条、へ
 呼、ま、た、る、人、救、の、中、へ、ま、る、小、猿、加、へ、ら、と、し、ハ、俵、屈、竟、と、渠、に
 町、掌、は、ま、の、控、業、猿、の、ま、似、長、刀、酒、也、宝、藏、へ、深、引、後、し、と、
 入、ま、さ、る、奪、ひ、を、負、せ、は、徳、政、の、子、又、入、り、り、追、討、お、盗、奔、強、
 盜、皆、ま、と、こ、の、子、番、屋、平、家、又、ハ、法、聖、の、病、も、信、ま、る、沙、法、源
 家、へ、吉、友、の、は、長、刀、好、ま、ら、う、長、範、が、匡、と、も、か、げ、ま、ま、て、今、より
 源、家、の、山、重、宝、徳、亦、こ、と、あ、る、二、個、の、若、も、系、本、譜、代、の、所、家、隸、筋
 三、平、世、四、郎、ハ、美、名、備、前、三、郎、道、秀、壬、生、小、猿、ハ、道、秀、の、甥、

備前平四郎老重と申す者、僕も忠義の志。我亡后もは老共
 所眼とかけらるる仕方のらば、某の死後の幸辱いとへぬき
 奉つると。悪徒とて、長龍の如く、附寸忠臣、義士半そ長刀
 押順希代の刃、成るるに、後田を清の夏物、神かりひて、ば
 流五や、石清、八幡宮、平家の重宝、左戻、源家の武士に、興
 ると、剛、美、多、神、龍、神、刀、源、氏、再、興、の時、至、ま、る、然、後、忠、義
 の大切と、も、は、し、さ、り、お、ろ、夫、も、知、ら、ず、と、願、せ、今、文、行、み、と
 分、院、お、く、後、悔、至、極、と、あり、る、と、ば、然、後、若、し、と、息、氏、徳、這、者
 眞、加、さ、る、事、言、忠、義、と、い、い、ひ、お、ろ、と、許、多、の、人、と、客、一、金
 浪、財、宝、會、う、る、非、道、の、拳、動、己、が、罪、己、と、亡、才、自、業、自、得
 と、い、い、へ、刑、罰、お、も、不、成、平、君、の、心、お、ろ、相、呆、る、は、け、と、も

おと、家、放、と、や、か、と、ら、は、と、西、小、む、い、念、堂、守、は、六、十、三、と、一、切
 し、眼、を、閉、て、引、と、息、五、折、も、不、動、其、後、に、安、生、の、社、生、来
 世、ま、で、お、名、と、残、す、然、後、ご、ま、の、行、を、奉、信、す、と、奉、信、丸
 か、と、ね、て、作、せ、ら、る、然、後、の、ま、の、非、も、は、深、が、来、ま、る、と、ま
 金の、う、ら、と、し、て、け、込、の、寺、院、に、号、附、し、隙、を、作、し、て、後、の、退、福
 る、む、し、備、前、平、四、郎、八、母、孝、盤、と、い、知、へ、所、供、お、ろ、三、郎、橋、次、の
 の、病、の、療、養、今、權、一、ご、往、け、よ、停、僧、に、も、ち、の、二、へ、強、く、し、と、
 ま、く、か、と、附、と、せ、た、ま、の、長、老、の、澤、家、も、退、く、お、ろ、半、そ、君、の
 働、お、ろ、お、ろ、も、で、も、危、命、助、り、し、と、欣、躍、今、入、て、も、願、死、人、を、
 行、付、さ、と、備、前、三、郎、橋、次、の、も、病、保、ま、の、同、長、老、の、件、に、お、ろ、
 ○飛、彈、老、郎、向、付、子、詠



陽香三郎

信平三郎

信平三郎

和泉三郎

花彈系連



手丸丸
橋次三郎

手丸丸

橋次

手丸丸
花彈系連
和泉三郎
信平三郎
陽香三郎

陽香三郎

とうろどに傍前二馬。捕次のふぬ。不日に平表におもむきをりしが。
 今ど陸奥衆とありつる。如に牛若丸鞍馬と下山。落しせ
 たまふとすえて。六波羅より四方へ付くと指する中より飛弾
 を射系連にけ。街通へ強き牛若丸青巻の長老のもとに居ひ
 坐すはしと義ひ知り。牛若丸奥出立の日と待
 うけたる。ゆきもあらず牛若丸はぬめのごとく捕次の奴僕に赤
 交り。傍前二馬平四馬一匹青巻の奴と赤交り。とらふに飛弾
 系連の人殺路次は付きて我付えんと切てくろく小をけり。すく
 との詮をばし。何強うとも切あし。此通と牛若丸の指揮ふる。
 傍前二馬平四馬。捕法もろとも後連て。遊人の者と切あす。けり
 いよ遊まらま。付子の者ども引きてくろく。系連。雅噪一個

馬上の大音と。僅の敵におくはるることやある。おれは強て牛若丸と
 搦投と絶ち。其折し。捕法が金舟の馬士三個飛弾太郎
 のまうりよ。遊多とくろく。やがて一個の者を指延。飛弾系連と
 馬とより顔倒し。ゆき下せ。残る二個の馬士ども。ゆきと
 投て。搦跟踏眼をひき。小よゆ。後上。皆一回よとの夜を別
 退ま。下よ。後巻小を折。南旁く。あせ。まに。付て。人殺
 右往左往よ。遊多と。那二個牛若丸君の前には。と突。系連
 ハ。奥品秀樹の。呪ふ。錦戸を。即。國。御。伊。達。次。郎。安。衛。和。泉
 三郎忠衛と。中。若。君。都。殿。其。の。強。き。捕。次。り。お。ろ。せ。し。後
 月日も。遠。延。引。也。お。近。よ。ま。う。へ。し。と。父。の。指。品。容。あ。と。か。ん
 折。展。如。へ。ま。り。合。せ。我。く。も。大。目。飛。弾。系。連。ハ。山。背。途。の

新編熊坂評話卷之五

血氣よ攝捕情とると低ひませ。牛馬丸大いふ欣たすし。
今よ不始秀衛の存志系ふし。それる列位一荷下向は。
對面のく礼謝せん夜三個の揚物の形の通りと接子も老
早系連の首もも漏らさずあは。首連より目出たると雷
よんごんぐん牛馬丸と守護しは。陸奥よりことごとく。



熊阪夜話卷之五 大尾

海川夜話仙家之月二編迄刻

弘化四年丁未正月發行

江戸小傳馬町三丁目 丁子屋平兵衛

同 京橋 弥左衛門町 大嶋屋傳右衛門

三都 同馬喰町二丁目 菊屋幸三郎

同 兩國 米澤町 釜屋又兵衛

書房 京都高倉佛光寺上ル 丸屋善三郎

大坂心齋橋筋南久太郎町 鹽屋卯兵衛

同 全町 南江入 秋田屋南兵衛

A13
4443
5

